

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成30年度第3回 社会教育委員・公民館運営審議会委員 会議		
開催日時	平成31年3月20日（水）14:00～15:10		
開催場所	南別館2階会議室		
出席者 会 長◎ 副会長○	<社会教育委員> ◎大橋委員 ○中江委員 楠亀委員 蒲生委員 村地委員 村北委員 吉井委員 三木委員 重野委員 <事務局> 奈良生涯学習課長 北村生涯学習課参事 岡田生涯学習課副主幹		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 岡田 電話番号：0748-36-5533 FAX番号：0748-36-5565 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要 約	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局	開会宣言と出席者確認
委員長	委員長あいさつ
	議事を交替 (委員長による議事進行)
事務局	3. (1) 生涯学習課の取組について (説明)
委員長	説明について意見・質問を求める。
委員	・放課後こども教室は、どういうことをやっておられるか。
事務局	・ニュースポーツを体験したり、地元の大学生による科学実験をしたり、宿題を教 えてもらったりしている。
委員	・老蘇小学校のコミュニティ・スクールのモデルについて、変わってきたことは何 か。
事務局	・老蘇学区は、歴史的なこと、これまで培ってきたことがあり、それを地域の方が 発見し、それを体験事業に結び付けていくことが、速やかにできるようになったと 感じている。より地域と学校が近づいたといえる。
委員	・放課後こども教室に参加される子ども達は希望者だけか。
事務局	・希望をとってやっている。
委員	・子ども育成会はまちづくり協議会の中にあるもので、子ども育成会がなくなると 誰が子どもを集めるのか。子どもは宝だが宝の探し方が難しい。連絡協議会は上 の方ではされているが、まちづくり協議会の部会で活動しているものには見えてこ ない。子どもの体験を考えても子どもをどう集めたらいいのか。連携する会議をど こでされているのだろうか知られていない。
事務局	・来年度、子ども達が参加できる事業を考えている。地域の方とつないでも集まっ てこない。 ・近江八幡市子ども会連合会では脱退する子ども会が増えた。原因として子ども達 が忙しすぎることを挙げられていた。
事務局	3. (2) 部会ごとの取組について (部会長より)
委員	「コミュニティセンターと社会教育」部会

委員	・1回目にグループワークをし、2回目の部会で実態を知らなくてはならないということになった。 ・まちづくり協議会連絡会で実施されていた報告会に参加しようと検討していたが、今年度は実施されないということだった。 ・来年度は市内のコミュニティセンターで実施されている事業を見学していこうということになった。 「学校と地域の連携・協働」部会 ・学校区ごとに地域の特色、地域の核としてまちづくりが進められている。地域の特色を生かして人が集う何かのしかけを作っていかなければいけない。 ・子どもが集まれば大人と一緒に動くことを考えれば、「学校と地域の連携・協働」部会の一つの視点である。 ・地域によって学校の役と地域の子ども会の役とを保護者の方は兼務いただいている。何か地域のイベントに子どもの出番を作っていくことが、大人も動き、人々が集うつながりに結びつく。 ・私たち社会教育委員は何をしたらいいのかということになると、各地域でどのようなものを核として人が集うしかけを作られているかを知り、学ぶことが委員としては大事なことである。学んだことをこういう方法があるということを経験を社会教育委員会から地域へ発信していくことで、各地域のヒントにしていけるのではないかな。
委員長	・今年度の経験をもとに次年度に部会を展開していただければと思う。 ・社会教育委員としての役割があるので、その役割を私たち自身が体験しながら、さらに地域に発信していく。何らかの役割を果たしていければと思っている。
委員	・子どもが少なくなり保護者だけでは事業をするのが難しくなり、地域で事業を展開している。これからの時代はそうになっていくと思う。
委員	・高齢者のふれあいサロンがあります。テーマの中に三世代交流が設定されています。ひとつの団体に事業を任せることは続かない。
委員	・安土まちづくり協議会の中の子育て部会で、夏休みにコミセン祭りを実施しています。子ども参加料 500 円でいろんな遊びができる。夜ですが約 150 人という子どもが参加する。映画会をしても多くの子どもが参加する。単純に子どもが忙しいということだけではない。子どもが参加する意欲というのは、大人が発想することでは子どもは参加する意欲を持たないかもしれない。 ・別紙資料 1 の第 2 次近江八幡市子ども読書活動推進計画の中に「心あそばせる読書」とある。子ども達はまず、おもしろいと思うところから本を開いてみようか、自分で読んでみようかという気になっていくと思う。 ・コミュニティ・スクールを進める上で、私たちが子ども達の心をかきたたせるような発想ができるのか。あるいは社会教育委員が、それを反映させるような手段が見えてくるのが重要となってくる。 ・社会教育委員、教育委員、地域学校協働活動推進員、まちづくり協議会等それぞれの立場で取り組んでいて、有機的につながっていない気がする。
委員長	・学校と地域の関係において、大きな問題として「働き方改革」がある。学校の先生方に地域に入ってもらいたい思いはあるが、「働き方改革」の中で先生の仕事が増える

委員	なり、校長先生は先生方にそれをお願いできない。校長先生自らがそこに出かけていく。先生方がそこに行かれないとなると、学校と地域の連携は取れるのかという指摘があった。 ・地域の方は先生方に、地域での子ども達の姿を見ていただきたいという思いが強いが難しい現状で、学校教育が今後どのように機能していくのか。社会教育委員会としてどういう関わりができるのかというのも問題となってくると思う。 ・教員に時間外をお願いをすることは難しい。時期的に土・日曜日でも市、地域の行事がかぶっている。そのようなところにはできるだけ出るようにという声かけはしている。教員も生活のベースがあり、同じような行事がある。自分の地域も行事には出てもらいたい思いがある。そうすると管理職が職場の地域の行事に顔を出させていただく状況がある。 ・桐原学区の現状をいいますと、生徒指導の担当に桐原まちづくり協議会のひとつの部会に入ってもらい位置づけを地域がしてくださっている。人材育成部会には、教育相談や人権担当の教員が入っている。時間外に会議に行ってもらい環境を学校でも作るようにして参加してもらっている。 ・担任が会議に出席しその代休を取ろうとするとクラスに穴が空いてしまう。担任以外の教員で可能な範囲で、地域に出てもらうような状況にはしていきたいと思っている。 ・コミュニティ・スクールの話で、単に行事のやり取りというほかに、学校の基本方針を今まで以上に地域の代表の方に話をする機会ができる。地域の方も学校もこうあってほしいというやり取りが、これまでの評議員会よりは濃くできるようになってきた。そういう意味では学校のことを地域に広げるチャンスになりますし、地域の思いも学校に寄せていただく窓口になっていただける。距離感を縮めるいい組織になっていくのかと思う。
事務局	3. (3)その他について（説明・質疑なし）
委員長	意見・質問等ないので、最後の連絡事項に入ります。事務局からお願いします。
事務局	4. 連絡事項（市社会教育委員会議関係事業報告・予定）について（説明・質疑なし）
副委員長	閉会のあいさつ 5. 閉会